

入居企業紹介 その74

SICに入居されている企業をご紹介します。

SIC-1 101・102

株式会社エフ・ティ・エスコレーション



代表取締役 門倉貞夫氏と中光研究員(クリーンルームにて)

【代表プロフィール】

株式会社エフ・ティ・エスコレーション

代表取締役 門倉 貞夫(かどくら さだお)さん

大手化学系メーカー出身。

八王子市在住

学生時代から始めたテニスは50年以上続けている。

最近ではゴルフにも力を入れ、健康・体力の維持に努めている。

【起業しようと思ったきっかけは?】

化学系メーカーでは、エンジニアとして薄膜材料の加工のために東京工業大学の技術シーズを利用してスパッタ装置を開発していたが、企業の事業再編の中で研究開発が中止することになり、自身で研究開発を続行しようと考えた。

1996年自宅の空き敷地に実験室をつくり創業。その後、SIC-1のオープンとともに入居。SICでは2つのラボを利用し、クリーンルーム内外に開発したスパッタ装置が並ぶ。

【事業紹介】

新対向ターゲット式スパッタリング(NFTS)をコア技術に、これまで困難とされていた量産性に優れた低温・低ダメージで高品質な薄膜形成を実現し、大学・企業の研究開発部門での先端材料開発をサポートし、装置を提供している。

NFTS技術の応用分野は広く、従来型のスパッタ技術では難しいとされる磁性薄膜、金属ターゲットを用いた反応性スパッタによる酸化膜、窒化膜の高速成膜、半導体や多層光学薄膜、有機ELディスプレイなど様々な分野で使用されており、最近では中光研究員を中心に東京工業大学とMEMS分野への応用を目指した共同研究を進めている。



基板回転式NFTS装置



インライン式NFTS装置



基板静止式NFTS装置



ウェブ式NFTS装置

【これからの夢 または目標は?】

「NFTS技術による製品開発成果として省エネ効果の高い透明断熱フィルムが技術的に完成してきた。

事業化とともに操業場所の確保を検討している。これを契機に、若手スタッフの採用などにより組織づくりを進め、次世代にNFTS技術を継承していきたい。」と門倉社長は抱負を語る。

株式会社エフ・ティ・エスコレーション

SIC1-101・102

TEL042-770-9403 FAX042-770-9403

<http://www.ftsc.co.jp/index.html>



入居企業トピックス

●今月の掲載記事紹介

10月の新聞紙上に掲載された企業をご紹介します。ご紹介する記事は、SIC-1と2に掲載していますので、どうぞご覧ください。

10月11日(月) **株式会社イマジスタ**
 神奈川新聞 ビジネスウオッチに掲載されました。
 X線 CCD カメラのプロフェッショナル

10月15日(金) **動物アレルギー検査株式会社**
 日本経済新聞 この企業ここがポイント
 原因物質の特定可能に

10月20日(水) **株式会社青電舎**
 日本経済新聞 タッチパネルに「感触」

10月20日(水) **アムコテクノロジー株式会社**
 相模経済新聞 さがみのフロンティアに掲載されました。
 シックハウス憂い事業転換。経営理念は「環境」「健康」



入居企業の皆様へご案内

くるまかふえ Sky Days

11月のSIC販売予定日

5日(金)
12日(金)
26日(金)

営業時間 11:00~16:00
 パン・コーヒーともなくなり次第終了です。
<http://skydays.net>



SIC・KSPフォーラム2010 参加無料

モノづくりベンチャー・中小企業の生き残る道

2010年**11月19日(金)**

15:00~19:00

社のホールはしもと 多目的室

【プログラム】

基調講演 15:15~

「モノづくりベンチャー・中小企業に期待する」

神戸国際大学経済学部教授 中村 智彦氏



中小企業間のネットワーク構築や地域経済振興プロジェクトに数多く参画し、日本テレビ「世界一受けたい授業(工場見学)」に出演。イノベーションの担い手であるベンチャー・中小企業への期待、進むべき道について語っていただきます。

パネルディスカッション 16:30~

「アントレプレナーシップに富んだ起業家型人材とは
 ~相模原から羽ばたくベンチャー企業の事例から」

コーディネータ:

神戸国際大学経済学部教授 中村 智彦氏

パネリスト:

(株) グローバルヘルス 代表取締役 田中 寿志氏
 動物アレルギー検査(株) 代表取締役 増田 健一氏
 サイエナジー(株) 代表取締役 元田 良一氏

【交流会】18:00~ 参加費 2千円

お申し込み方法: <http://www.ksp.or.jp/ex/6thforum/>
 からお申込みください。

2010年11月

【今月の経営スケジュール(3月期決算の会社参考)】

経理: 10月源泉税・地方税納付、給与計算・試算表作成
 税務: 中間・予定申告

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|----|------------------------------------------|---------------------------------------------|--------------------|------------------|------------------------------------|---------------------------|
| 31 | 1 会議室1月分 予約受付開始 SIC-1 *エレベーター点検 | 2 | 3 文化の日 | 4 | 5 ☕ | 6 |
| 7 | 8 | 9 | 10 | 11 職場リーダー 養成塾 | 12 ☕ | 13 |
| 14 | 15 | 16 SIC-2 自動ドア定期点検 SIC-1,2 警備センサー点検 | 17 | 18 | 19 SIC-2 窓ガラス清掃 SIC・KSPフォーラム | 20 SIC-1 床面定期清掃 経営塾 |
| 21 | 22 | 23 勤労感謝の日 | 24 SIC-2 空気環境測定 | 25 職場リーダー 養成塾 | 26 ☕ | 27 |
| 28 | 29 | 30 | 1 | 2 | 3 | 4 |

* エレベーター点検 SIC-1 9:30~10:30の間はご利用になれません。お問い合わせは 生井(内線1116)まで

「嬉しい話」と「ワークショップ」と

今月は、とても「嬉しい話」とそんな「場」をつくれる「ワークショップ」についてご紹介します。

去る10月9日(土) Desk⑩ 齋藤優見さんの「社会起業プラン・コンペティション受賞報告会」が開催されました。「SICかわらばん」10月号で、ご紹介いたしましたあの「齋藤さん」です。私も参加させて頂きました。

齋藤さんの発表は、事業プランは勿論のこと、プレゼン資料も良く整備され、とてもレベルの高いものでした。何より事業への意欲が感じられるものでした。Desk⑩から、新しいビジネスの芽が確実に育っている姿が実感でき、嬉しい限りです。

もうひとつ、嬉しかったのは、Desk⑩の会員と入居者の皆様、この発表会に多数参加して頂いたことです。そして、発表のあとSIC片山さんのコーディネートにより、ワークショップが行われました。参加された皆様が、それぞれの立場、多様な角度から、齋藤さんのビジネスに対して、真剣に意見交換を繰り返して行ってくれました。参加者全員が、自分の事として、齋藤さんへ話しかけてくれていました。予期していない光景でした。ワークショップでの「創発」が起こった瞬間でした。Desk⑩の新しい『文化』になるかもしれません。そんな予感がする「受賞報告会」と「ワークショップ」でした。

実は、私たちSIC社内においても新しいチャレンジが始まりました。9/22,10/5,10/20の三日間にわたり、「SIC次のステージ・ワークショップ」を実施しました。テーマは、まさしくSICが、「次のステージ」へステップアップするための「現状認識」と「経営理念の共有」です。

2つのチームを作り、定石のSWOT、それを3C、PESTなどのフレームワークで、ポストイットで意見抽出し、整理統合。その後、価値観の共有のために、「事業」「社会・地域」「顧客・取引先」「社員」に対して「絶対にやりたくないこと」「絶対やりたいこと」を話し合い、「SICは、何のために存在するのか」を再確認しました。

SICの「創業の精神」を思い起こし、激動する市場への対応をしなければならないことが共有できたのではないかと考えています。こう言った事を社内でワイワイ話し合えるのは嬉しいですね。

ところで、いきいきとした「場」を作ってくれる「ワークショップ」とはどんなものでしょうか・・・体験された方は多いと思いますが、このような概略です。

「ワークショップは、学びや創造、問題解決やトレーニングの手法である。参加者が自発的に作業や発言をおこなえる環境が整った場において、ファシリテーターと呼ばれる司会進行役を中心に、参加者全員が体験するものとして運営される形態がポピュラー。「workshopとは、本来「作業場」や「工房」を意味するが、現代においては参加者が経験や作業を披露したり、ディスカッションをしながら、スキルを伸ばす場の意味を持つようになっている。」(Wikipedia)

また、堀 公俊氏によれば、こんな定義がされています。「ワークショップを直訳すると、工房・仕事場・作業場となります。そこから転じて『主体的に参加したメンバーが共同体験を通じて創造と学習を生み出す場』をワークショップと呼びます」

●会議・研修とワークショップの違い

| | 会議・研修 | ワークショップ |
|-----|-----------|------------|
| 参加 | 強制的 | 主体的 |
| 集団 | リーダー中心 | 参加者中心 |
| ムード | 秩序的・権威的 | 自由平等・創造的 |
| 進行 | 議長・講師(先生) | ファシリテーター |
| 行動 | 説得・教育 | 納得・学習 |
| 活動 | 単方向(一方通行) | 双方向(マルチ方向) |
| 成果 | 予定調和 | 創発(予定外) |

(「ワークショップ入門」日経文庫 堀公俊著 2008/11)

会議・研修が悪いわけではなく、その「場」に応じて使い分けすることが有効であると思います。

このように、企業の中で経営課題などについてワークショップを実施してみるのも、人それぞれ異なった考え方や意見を持っていることが明確になり、興味深く面白いですよ・・・。

わたしの居場所

どんな人ですか? SIC スタッフ編

今月のスタッフ【インキュベーションマネージャー 中村 浩】

今回は、私が何もかも忘れて、ひとつのことに没頭できる(居)場所を紹介します。

その場所はスキー場です。雪が降り積もったゲレンデを、頂上から一気に滑り込むときの爽快感やスピードがたまらなく好きです。斜度や雪質を目で見、足で感じて滑っていきます。以前と比べて、ゲレンデは空いていますが、周りの人に注意を払い、自分の能力に合わせて、スピードやコースを決めなければなりません。その集中して滑っている時が大好きなのです。

私は秋田県出身ですが、本格的にスキーを始めたのは30才位からです。子供の時は、忠犬八千公の故郷である秋田県大館市で育ちました。大館市は、県北部の山あいの町でとても雪が多く、昔は一晩で50cm以上積もりました。でも、リフトがある立派なスキー場はなく、もっぱら、近くの坂道等でソリやスキーで遊んでいました。

30才からのスキーでは、もちろん、曲ることも止まることも出来ず、何度も転びましたが、雪の中で遊んでいたの、

恐怖感はありませんでした。その後は、スキーに夢中になり、一冬で10回程度、遠くは北海道にも行くようになりました。

10年程、スキーから少し遠ざかっていましたが、最近、少しずつ再開し、今年は10数年振りにスキーウェアを新調し、11月に届く予定です。今年もあと2ヶ月ですが、シーズン到来が待ち遠しい私です。



(次回は、インキュベーションマネージャー 飯山です。)



【シリーズ企画 企業支援の現場から・・・アドバイザー編】

香港・上海で8年間、中国ビジネスの最前線にいた SIC アドバイザーが4回に渡り、中国事情についてご紹介して参ります。

異文化とのやりとり

●昨今の日中関係と報道

中国での反日デモの報道があり、日中間が険悪になっていると言われます。実際のところ、以前のSARS騒ぎも今回のデモも、中国にいと、この騒動はどこの国の事かと思われるほどでした。日本での報道を情報としてどうとらえるかということの大切さを感じます。しかしデモの存在は事実です。

●日本鬼子

さて、「日本鬼子（リーベンギズ：日本の鬼たち）」という中国語をお聞きになった事があるでしょうか。テレビの中国デモ報道映像などで横断幕に書かれていたりしますので、気付かれた方もいるのではないのでしょうか。この言葉は、中国で日本人を軽蔑する言葉として使われる激しい言葉です。中国語のインターネットなどでもよく出てきています。

●日本からの新たなカード

日本政府の有効な対中外交カードが無い今、この日本鬼子という言葉に日本のオタクといわれる層が反応し、新たな草の根プロジェクトが現在動いています。

それは、「日本鬼子（ひのもとおにこ）」という萌えキャラを作り、日本鬼子に別の意味、概念を作る事で、その新しい概念が定着した人が反日デモや暴動を見た時、「日本鬼子の旗を持った人が顔を真っ赤にしてシュプレヒコールを挙げていたらどう思うだろうか。」や、「日本鬼子ってなんだろうってネットで調べたら、萌えキャラのかわいい鬼子ちゃんが出てきたらどう感じるだろうか。」という趣旨で、この日本鬼子という言葉自体を変質させてしまおうというプロジェクト

です。

日本が誇るアニメ文化やオタクという概念は、かなりの影響力を持ち、中華圏で若者にしっかりと根付いています。情報制限や検閲をする中国政府でも、このような文化の発信は止めることがなかなか出来ません。

既に中国のネット掲示板では、

「こっちは罵声を送っていたはずなのに…」

「これが“日本鬼子”って…こんなとき、どんな顔をすればいいかわからない…」

「こう来るとは全く思いもしなかった」

「こんな手を打ってくるとは」

などの反応も返って来ています。



●剛に対して柔で返す

真正面から対抗してアクションを起こすのも手ではありませんが、この様に斜めに受け止めて違う方向から包み込んで相手をやりこめてしまうという方法もあるという例です。

異文化とコミュニケーションしなければならない海外ビジネスでも、違う土俵での交渉に持ち込む、発想を変え相対してみるなど、知っておいて損のない方法のひとつでしょう。

SIC アドバイザー 早野 寿一

荻島の気になるレポート

橋本駅南口、ブックオフの前にあるカフェレストラン『カフェコレット』をご紹介します。「あ～！ あそこ！？」と、ご存知の方も多いと思います。4年前までは、28年間「コロラド」と言う名前で喫茶店をされていました。3年前に名前・店舗ともにリニューアルオープン。一人一人の時間を大切に、心を込めた美味しい食事と一杯一杯、サイフォンで点てた美味しいコーヒーを提供しています。ファストフード店とは、気持ちと味と時が違います。広く明るくゆったりとした落ち着いた店内の奥のカウンターには、「コロラド」時代の雰囲気そのままに再現。なつかし～当時から、生ケーキをお店に取り入れる事を考えていたオーナーの豊泉さんは、9月号でご紹介した“パティスリープリエ”の岡部さんと意気投合、念願の美味しい生ケーキ（プリエさんのケーキ）も楽しんでいただけるお店になりました。ゆっくり話をしたい時にお勧めです。

<http://homepage3.nifty.com/corretto/index.html>

Cafe Restaurant CORRETTO



■住所 相模原市緑区橋本2-2-10 サウスサイド1階 ■電話 042-773-8703 ■定休日：毎週月曜日 営業時間：平日9時～22時 土日祝祭日9時～21時

編集後記

年賀状、お歳暮、クリスマス、おせち料理などなど「もうそんな時期!?!」「どうしようか?」と言う季節になってまいりました。7月1日から予約受付開始だったお正月の温泉旅館やホテルには、まだ空きがあるのでしょうか?夏休みの予約がまだ取れるかな?と考えている時期に、既にお正月の予約をされている方々が沢山いらっしゃるのですから、やっぱり年間計画は大切?なのかも知れません!?!。荻島

★ご意見・ご感想をお待ちしています。(株)さがみはら産業創造センター(SIC) 〒252-0131 相模原市緑区西橋本5-4-21
電話:042-770-9119 FAX:042-770-9077 ホームページ: <http://www.sic-sagamihara.jp> E-mail: koho@sic-sagamihara.jp